

朝はラジオ体操から



やまとこおりやま 大和郡山市長(奈良県) **うへだ きよし** 上田 清

お城と金魚

大和郡山市のシンボルといえば、お城と金魚。これをつないで誕生したのが市の指標『平和のシンボル、金魚が泳ぐ城下町。』で、すっかり定着しました。

実はこれにはいわれがあって、3月3日のひな祭りには、かつて金魚を飾る習慣があったそうで金魚の組合がこの日を「金魚の日」としていること、一方、ひな祭りは平和を連想させることから日本ペンクラブがこの日を「平和の日」としていること、これらを組み合わせたものなのです。つまり、本市の魅力を発信する最強のタグダといえます。

その郡山城は、戦国時代の筒井順慶つづいじゅんけいに始まり、豊臣秀吉の弟秀長の時代には大和・



観月会 天守台展望施設にて

和泉・紀伊百万石の中心として栄えます。江戸時代には天守閣は撤去されるものの、交通の要衝であったこともあり、有力大名が相次いで入部しました。そして1724年、現在姉妹都市としてお付き合いをいただいている甲府市から柳沢吉保の子吉里が入部、以後、柳沢氏の下で幕末を迎えています。

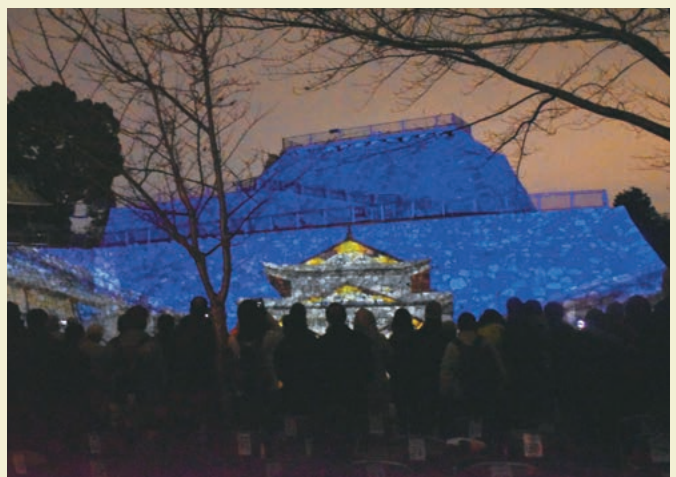
創建以来の姿を誇る天守台は近年、崩落の危険が指摘され、立ち入り禁止となっていました。平成27年から石垣の解体、積み直しに着手、平成29年春には展望施設とともに天守台はよみがえりました。奈良盆地を一望できる天守台は、元旦の初日の出や若草山焼き、中秋の名月などに開放するほか、恒例となった金婚式や高校生のコンサート、さらに今年は演劇の発表も予定されています。

また昨年12月には、阪南大学や奈良高等専門学校たかとうの学生の協力を得て、石垣を画面とするプロジェクションマッピングが行われ、大好評を博しました。

一方、25年前わが国の伝統文化ともいえる金魚すくいを、スポーツとして捉えて始めた全国金魚すくい選手権大会は昨年、世界大会に。これからの発展と広がりがますます楽しみです。

朝はラジオ体操から

昭和58年7月27日。私にとっては「第二



天守台石垣に映えるプロジェクションマッピング

の誕生日」といつも言っています。というのも、この日の午前11時ごろ、北アルプス常念岳の山頂手前で落雷に遭遇し、地面に叩たたきつけられたのです。山小屋で意識を回復した私は、大した怪我けがとも思わず横になっていました。しかしその後、入院先で頭から顔、胸、右足にかけて体の表面積の3分の1近くに及ぶ火傷やけどと鼓膜の損傷を告げられ、驚いたことを鮮明に覚えています。おかげさまで、入退院を繰り返しながらも、翌年の春には職場に復帰し、大好きな登山の再デビューも果たしますが、健康の有り難さ、何よりも命の大切さを身にしみて感じる事ができた貴重な体験だったと、今では素直に受け止めています。当時

32歳だった私に、ある人が教えてくれた「一日一生」という言葉。今も忘れることができせん。

そうしたこともあって、健康への関心は強く、初めて市長に就任後、地元で盛り上がったのがラジオ体操の開催でした。

本市には地区ごとにミニ体育館があり、その横のグラウンドを会場に、雨天時はミニ体育館に移動して、年末年始を除く毎朝、笑顔と元気な声があたりに響きます。参加者は普段は60〜70人、夏休みなどになると子どもたちも加わって100人を超えることも。



「大和丸なす大使」チキンガーリックステーキのみなさん(左から3番目が筆者)

以来、今春で丸17年となるラジオ体操は、平成29年7月25日に通算5000日を達成、今年初夏には6000日に到達する計算です。毎年4月には、参加率85%以上の方を対象に表彰式が行われ、ここ数年は100%達成の猛者も増えつつあります。市内でもいくつかの地域でラジオ体操が行われるようになりましたが、健康づくりにどのような影響を与えているか、一度、分析したいと考えているところです。

ふるさとの魅力再発見を

江戸時代、城下町として栄えた郡山は、明治以降も県内経済の中心として発展し、例えば東洋一ともいわれた大日本紡績(ニチボー)が操業していましたが、昭和39年の東京オリンピックでニチボー貝塚が活躍する中、閉鎖に追い込まれました。

このことに危機感を抱いた本市が国の支援を得て開発したのが昭和工業団地で、今



大和丸なす

も県内最大の規模を誇っています。これに合わせて、西の矢田丘陵周辺では住宅団地が開発され、その際の残土が大阪万博(1970年

開催)に向けて始まったばかりの名阪国道の建設に利用されたといいます。

その結果、本市は城下町の町並みを中心に、南には工業団地、西には大規模な住宅団地、北には一戸建て住宅地域、そして東には緑豊かな田園地域と、バランスの取れたまちとして発展してきました。昭和工業団地には食品関係の企業が大変多く、市内の農家との連携も盛んですが、古くから作られてきたイチゴやトマト、「筒井れんこん」や「大和丸なす」なども注目されています。

中でも「大和丸なす」は、これがなすびかと思うほど肉質がしまり歯ごたえがよいのが特徴で、厚めのステーキがおすすめ。昨年夏には、かねて仲良くしていたいただいているアカペラの草分け的グループ『チキンガーリックステーキ』さんに「大和丸なす大使」を引き受けていただき、拠点の神戸を中心に広く発信してもらっているところです。

一方、県内でも有数の産地となっているのが「いちじく」で、長距離輸送に向かないのが難点でしたが、地方創生の枠組みの中で「いちじくワイン」の製品化に挑戦しているところで、成果やいかに。

最後に、ふるさと納税の返礼品で好評をいただいているのが岡山のデニム、神戸の牛革と大和郡山の技術がコラボした紳士靴で、伝統産業に再びスポットライトが当たることを心から期待しているところです。